

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「闇に光を」

— クリスマスの喜びとは —

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「誰も闇の中にとどまることのないように、
私は光として世に来た。」(ヨハネ 12:46)

「暗闇に光を！」がクリスマスの喜び、そして争いや偏見に満ちた世界の中で、心から願い求めたいことです。「誰も闇の中にとどまることのないように」は、「誰ひとり取り残さない」というSDG'sの目標と同じです。イエスさまに繋がって、取り残されている、闇の中にとどまっていると感じている人の「となりびと」であることが、キリスト者の使命であることを、11月に行なわれた「2023年日本聖公会宣教協議会」で私たちは再確認しました。

宣教協働区という教区の枠を超えた協力体制や伝道教区という枠組みによって、新し教区のあり方の模索をする中で、私たち一人ひとりが神さまの宣教の業に参与させていただくための変革の時を歩んでいます。宣教の担い手は、地域にたてられた一つひとつの教会、信徒・教役者お一人お一人です。誰も暗闇の中にとどまることのないように、すべてのいのちの「となりびと」であるようにと召し出されています。

イエスさまを私たちの心にお迎えして、喜びを分かち合うクリスマス、ことに困難の内にある方々の上に、あたたかな希望の光が届けられることを願ってやみません。

暗闇の中に一筋の光が差し込むように、平和の君イエスさまは暗い馬小屋で産まれ、その知らせは、暗闇で羊を守る羊飼いに知らされました。暗闇に届く光こそが、よい知らせ・福音です。私たちが暗闇だと思っている様々な思いや煩いは、私たち自身の貧しさの現れ、日々の苦労や思い悩み、疲れや無関心さ、忘れやすさや怒りっぽさ、それらすべては貧しさからくるものです。「貧しい人は幸いである」とイエスさまが言われたのは、私たちの内にある暗闇の部分の自覚できるものでありなさいということではないでしょうか。イエスさまの福音が、暗闇の部分、貧しさに輝く光として届くのがクリスマスの喜びであることを覚えていきたいと思ひます。

□会議・プログラム等予定

(2023年12月20日以降・前回未掲載分)

12月

- 7日(木) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [+ Web]
- 7日(木) 宣教協議会コールコミッティ [Web]
- 13日(水) 宣教協議会コールコミッティ [Web]
- 17日(土) 原発のない世界を求める Zoom カフェ [Web]
- 28日(木) 祈禱書改正委員会 [Web]

2024年1月

- 7日(日) ~ 8日(月) 各教区青年担当者の集い [ナザレの家]
- 8日(月) いのちをみつめる祈りの集い [Web]
- 10日(水) 人権問題担当者会議 [Web]
- 11日(木) ~ 12日(金) 各教区正義と平和担当者会 [ナザレの家]
- 12日(金) 正義と平和委員会 [ナザレの家]
- 15日(月) ウィリアムズ主教記念基金基金委員会 [立教]
- 17日(水) ナザレ委員会 (ナザレの家)
- 17日(水) ハラスメント防止・対策研修会・東日本① [Web]
- 18日(木) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 18日(木) ハラスメント防止・対策研修会・中日本① [Web]
- 19日(金) 法憲法規委員会 [Web]
- 22日(火) 資産運用規程検討タスクフォース会議 [管区事務所]
- 23日(火) 日韓宣教協働 40周年打ち合わせ [管区事務所]
- 25日(木) 日韓協働合同会議 [Web]
- 26日(金) ハラスメント防止・対策研修会・西日本① [Web]
- 31日(水) ~ 2月1日(木) セーフ・チャーチ・タスクチーム会議 [ナザレの家]

2月

- 6日(火) ~ 8日(木) 定期主教会 [沖縄]
- (次頁へ続く)

☆ 12月25日(月) は降誕日礼拝のため、管区事務所の業務を休業いたします。よろしくお願ひいたします。

※管区事務所の年末年始休業

12月29日(金) ~ 1月5日(金) までの間、冬期休業いたします。よろしくお願ひいたします。緊急の連絡は総主事まで。

光として世に来られたイエスさまを私たちの心の中にお迎えし、新しい1年の歩みを起こしていきましょう。

クリスマスおめでとうございます。



(前頁より)

- 12日(月) いのちをみつめる祈りの集い [Web]
- 13日(火) 財政主査会 [管区事務所]
- 15日(木) 主事会議 [管区事務所]
- 15日(水) ハラスメント防止・対策研修会・東日本② [Web]
- 16日(金) ハラスメント防止・対策研修会・中日本② [Web]
- 17日(土) 原発のない世界を求める Zoom カフェ [Web]
- 19日(月) 年金委員会 [管区事務所]
- 20日(火) 常議員会 [管区事務所]
- 23日(金) ハラスメント防止・対策担当者会 [阿佐ヶ谷聖ペテロ教会]
- 26日(月) ~ 27日(火) 各教区人権担当者会 [大阪・奈良]

<関係諸団体会議・他>

- 1月24日(水) NCC 役員会 [Web]
- 25日(木) ~ 26日(金) 外キ協全国協議会・全国集会 [広島]
- 2月7日(水) NCC 役員会・常任委員会 [Web]
- 19日(月) ~ 24日(土) 聖公会国際典礼委員会 [韓国]
- 20日(火) ~ 22日(木) 9条世界宗教学者会議 [沖縄]
- 26日(月) ~ 27日(火) 各教区人権担当者会 [大阪・奈良]

□各教区

東京

- ・ 聖職按手式 2024年1月6日(土・顕現日) 14時~ 日本聖公会東京教区 三光教会
司式: 主教 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸
説教: 司祭 パウロ佐々木道人 司祭按手
志願者: 執事 ヤコブ荻原 充

□管区

- ・ 例年「代代表 1月」の表紙に掲載しておりました「NCC キリスト教一致祈祷週間(1月18日~25日)」2024年の聖句が決定しましたので、お知らせいたします。どうぞよろしくお願いたします。
あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい (ルカ10:27)

□主事会議

第67(定期) 総会期第6回 2023年11月27日(月)
<主な報告・協議>

1. 大齋克己献金国内伝道強化プロジェクト選定について、来年度の応募はなく大齋克己

献金資金に積み増しすることとした。

2. 主日信施によって支えられる働きについて、神学校と生野センターに昨年と同様に補填し、支えることとした。社会事業の日の信施について、2021年度分の預り金を補填し200万円を(福) 聖ヒルダ会に送金することを承認した。
3. 管区一般会計および特別会計収支予想について、ナザレ資金の立ち上げによる大幅な変化があり、補正予算案として常議員会に提案することとした。
4. 「日本聖公会年金規約」一部改正(加入資格の拡大、24年総会提出予定)について、協議した。
5. 教役者遺児教育基金の更なる活用方法のアンケートについて、協議した。
6. 資産運用規定案について、確認した。
7. 特別協力金として教区分担金Iの1割を各教区に還元することについて、承認し、常議員会に提案することとした。

次回会議: 2024年2月15日(木)

□常議員会

第67(定期)総会期第9回 2023年12月6日(水)
 <主な決議事項>

1. 香港聖公会宣教180周年(記念礼拝10月23日)へのお祝いに関して、5,000香港ドル(約10万円)の支出を承認した。
2. 大齋克己献金国内伝道協会プロジェクトの選定に関して、来年度の応募はなく、主事会議の提案通り大齋克己献金に積み増すことを承認した。
3. 2024年度管区事務所職員給与に関して、例年通り定期昇給することを承認した。
4. 日本聖公会「ナザレの家」利用規約に関して、一部文言を修正のうえ変更を承認した。
5. 聖公会センター追加工事に関して、水道引き込み工事やごみ置き場の設置など見積当初には算出できなかった追加工事費用の増額および減額を検討できた費用など、差し引き合計750万円の支出を承認した。
6. 「日本聖公会年金規約」一部改正の件(加

入資格の拡大・総会提出予定)に関して、一部文言を修正のうえ提案を承認した。

7. 日本聖公会資産運用規程に関して、タスクフォース座長より説明を受けて検討し、継続審議することとした。
8. 特別協力金(教区分担金Iの約1割の還元)の主事会議からの提案に関して、教役者給与調整支援金への活用も考えられるなどの意見が出され、財政主査会と主事会議に再検討を依頼し、継続審議することとした。
9. 2024年度一般会計補正予算案に関して、主事会議の提案通りナザレ資金の立ち上げなどに起因する補正予算を承認した。
10. 神学校のために祈る主日と日本聖公会生野センターのための主日信施について、主事会議の提案通り昨年と同様に補填を行ない、その働きを支えることを承認した。

次回会議: 2024年2月20日(火)、4月19日(金)

《教会・施設》

東北

仙台基督教会の伝道所「西の平聖パウロミッション」

2023年11月25日付 閉所礼拝をもって閉所

◆ご希望にこたえて配本を早め、10月中旬配本!

聖公会手帳 2024



※写真はイメージです

- ◆各教区事務所・教務所協力のもとに
◆日本聖公会
管区事務所責任編集
- ◆2024年度教会暦
日課表を完全収録
- ◆前年に続き「祈り」
のページを大幅
増幅、地理環境に
に関する祈りも。
- ◆全国の教会・伝
道所、関係諸
施設情報を網羅

大型判(A5判) 2,200円(税込)
 ポケット判 1,200円(税込)

お求めはバイブルハウス南青山店
 (☎03-3567-1995 HP: <https://www.biblehouse.jp/>)、
 またはお近くの書店まで



日本聖公会管区事務所
2023年9月

2023年教区会選出常置委員

北海道	聖職	大町信也(長)	下澤 昌	永谷 亮
	信徒	大友 宣	小澤暢子	吉谷かおる
東北	聖職	越山哲也	渡部 拓	八木正言
	信徒	赤坂有司(長)	坂水かよ	畠山秀文
北関東	聖職	斎藤 徹	矢萩栄司(長)	鈴木伸明
	信徒	養田 博	廣瀬 清	石森真子
*東京	聖職	上田亜樹子	卓 志雄	中川英樹(長)
	信徒	植松 功	黒澤圭子	後藤 務
横浜	聖職	片山 謙	宇津山武志	田澤利之(長)
	信徒	中林三平	岩井讓治	澤登康子
中部	聖職	大和孝明(長)	丁 胤植	市原信太郎
	信徒	上野光一郎	牛島達夫	河西恵子
京都	聖職	小林宏治	大岡左代子	出口 崇(長)
	信徒	中川典子	出口 弘	高垣成美
大阪	聖職	小林 聡(長)	千松清美	義平雅夫
	信徒	寒河江研司	加納佳世子	太田彦彦
神戸	聖職	上原信幸(長)	林 和広	芳我秀一
	信徒	大東正人	弘井宗子	末永 忍
九州	聖職	牛島幹夫(長)	小林史明	島 優子
	信徒	東 美香子	石川聖二	濱生牧恵
沖縄	聖職	岩佐直人(長)	咸 允淑	金 汀洙
	信徒	川満すわ子	並里 厚	佐久川正美

*東京教区は常置委員を毎年3月の教区会で選出



■『聖公会手帳 2024』 正誤表

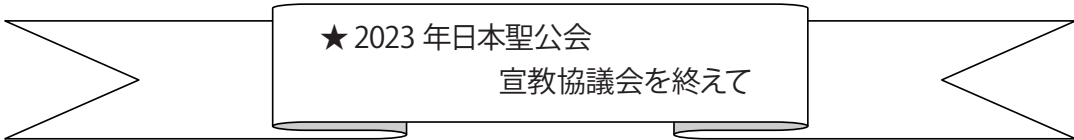
56頁・96頁・98頁 2月4日(日) 顕現後第5主日〔ハンセン病問題啓発の日〕を追加
2月11日(日)〔ハンセン病問題啓発の日〕⇒ 削除

□日本聖公会『管区事務所だより』購読のお願いと購読料について

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面での確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の年間購読料について、通信費・紙代・インク代の値上がりなど、さまざまな事由のため、年間購読料金改訂をいたしました。年間の購読料金は個人1,200円、1か

所につき2部以上ご希望の場合は1部当たり1,000円となりました。ご不明な点などございましたら管区事務所宛てに電話にてお問い合わせください。余儀ない事情をご理解いただき、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

管区事務所 電話：03-5228-3171



★ 2023年日本聖公会
宣教協議会を終えて

2023年日本聖公会宣教協議会で実感したこと

日本聖公会首座主教 主教 ルカ 武藤謙一

2023年に開催された日本聖公会宣教協議会での提言に基づいて、宣教・牧会の10年の実りを持ち寄る宣教協議会が、11月10日～13日、「いのち尊厳限りないもの～となりびととなるために～」をテーマに、各教区、管区委員会、諸団体から約130名が参加して、山梨県清里で開催されました。

「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」(詩篇133:1) この宣教協議会で何よりも実感したことは、この詩編の言葉です。普段はなかなか会うことができないわたしたちですが、全国各地から集まった仲間たちが、互いの存在を尊重しあう雰囲気を大切にしながら、共に祈り、聴きあい、語り合い、食事を共にする。もうそれだけで十分に平安、感謝、喜び、励ましなどたくさんの恵みをいただきました。さらにこれまでにはなかったことですが、今回は主なプログラムはユーチューブ配信されました。全国各地の多くの皆さんが視聴してくださいました。正確なことは分かりませんが、毎日300人ほどが視聴くださったと聞いています。その方々をも含めてわたしたちが主の家族として一つであることを実感できたことは何よりも大きな恵みでした。

今回の宣教協議会では「主教会からのメッセージ」という時間があり、宣教協働区と伝道教区制を踏まえての各教区主教の想いが語ら

れ、また宣教協働区ごとに集まる時間が設けられました。このようなプログラムが準備されたように、宣教協働区内の他教区との宣教協働なしには、各教区、教会の宣教・牧会はないということです。各教区の主体性や独自性は尊重されながら、同時に他教区との協働なくしては自教区の宣教・牧会もなされないということを強く意識させられました。その意味では今回の宣教協議会に長年の宣教協働のパートナーである大韓聖公会などアジアの聖公会からの参加が全くなかったことは残念なことでした。

最終日には「清里からのよびかけ」について協議しましたが、ドラフト作成チームからの原案が示されましたが、それについて協議し、参加者一同の同意を得ることはできませんでした。しかし、そのことは参加者一人ひとりが、他人任せにするのではなく、積極的に協議会に参加したことも証しであると理解しています。また清里での3泊4日で宣教協議会が終わったのではなく、これからも参加者一人ひとりが自分の課題として受け止めていこうとしているのです。

上述のような少し混乱した状況のなかで閉会聖餐式が献げられました。もっと議論を続けるべきとの意見もあり、わたし自身もそのように考えてもいましたが、こんな時だからこそ、聖餐式、 sacrament に預かることが大切であると、今改めて思っています。礼拝すること、主を仰ぎ

見て主にすべてを差し出し、霊の恵みによって整えられて、この世へと遣わされていくこと、これこそが、わたしたちの原点なのです。

宣教協議会に参加してくださった皆さまに感謝いたします。特に宣教協議会実行委員会の皆さまには心から感謝いたします。またオンラインで視聴くださった皆さま、祈りをもって支えてくださった全国各地の皆さま、便宜を図ってくださった清泉寮のスタッフの皆さまにも感謝いたします。

宣教協議会は終わりましたが、これからが大事です。各教区、教会、管区の委員会などで、この協議会から出される「清里からのよびかけ」を浸透させていくか、どのように実践していくか、参加者の皆さんを中心にして、各教区で、日本聖公会全体として取り組みが始まることでしょう。わたしたちが、一つひとつの命を尊び「となりびと」として神と人びとによりよく仕えていくことができますように、聖霊の導きを祈りつつ、歩んでまいりたいと願っています。

2023年日本聖公会宣教協議会で感じたこと

宣教協議会実行委員長 主教 アンデレ 磯 晴久（大阪教区）

去る2023年11月10日～13日清里・清泉寮を会場に、日本聖公会宣教協議会が開催されました。後日、宣教協議会からの提言や報告書も発行されますが、協議会の簡単な報告と感じたことをお伝え致します。

前回2012年と同じ「いのち 尊厳 限らないもの」と言う大テーマのもと、そこに「一となりびととなるために一」という副題をつけて、すべての教区から実行委員、管区の諸委員含め約130名の参加者が集いました。

実行委員会では、宣教協議会は清里・清泉寮での協議会開催だけではなく、準備に入りました3年前から、宣教協議会は始まっている、そして協議会後も続く認識しております。まず管区諸委員・教区・教会関係諸団体にアンケートを取り、この10年大切にしてくられたことなどをお聞きしました。また「ぶどうの枝分科会」と称して、日本聖公会に関係するできるだけ多くの方々のお話を「聴く」ということ、「お互いに聴き合い、語り合う」ということを大切に準備を進めて参りました。

宣教協議会の前半は、準備と同様、しっかり耳を傾ける、「聴く」ことを大事にするプログラム

でありました。雨と深い霧の中、全国各地から皆様が集まって来てくださいました。1日目は各教区に実り持ち寄りブースを用意して頂き、2012年からの各教区、委員会、諸団体の歩みを聴き、分かち合いました。それぞれが個性ある歩みをしておられることがわかり、ミニバザーもあり、大変盛り上がりました。

続いてリモート配信や録画によって、「私たちのあゆみ～物語を聴く」というプログラムに入りました。3つの教会から、物語を聴きました。教会は、沖縄教区屋我地聖ルカ教会、九州教区厳原聖ヨハネ教会（対馬）、東北教区大館聖パウロ教会でした。とても暖かな空気が流れる心豊かな時間でした。たとえば、秋田の大館の教会、幼稚園があるのですが、幼稚園のこと、子どもたちのことを大切に祈っておられること、東京教区聖マーガレット教会と繋がっておられます。教区を越えて、大きな教会と小さな教会がよき交流をしておられる姿が印象的でした。（東日本大震災被災者支援 この大小2つの教会で2000枚のお座布団を作製し、届けたそうです。）

2日目、前日の霧がうそのように晴れました。気温は1度。冷たくさわやかな空気に、心が洗われ

る朝でした。朝の礼拝に先立って、現在改訂中の日本聖公会祈祷書について、笹森田鶴主教から、その理念・ビジョンについて伺いました。

「いのちの現場から聴く」では、5人の方からお話を伺いました。「保育園の現場から、こどもたちとのかかわりを通して、神さまが語っておられること、神さまからのこどもたちへ豊かな祝福の報告」、「チャプレンと言う立場から臨床の現場で寄り添うこと（英国での第2次世界大戦中、日本の捕虜となったイギリス人元兵士の方々ととの和解の経験）」「ホームレス支援活動から 貧困問題について」、「性的マイノリティの相談業務の現場から 性的多様性・多彩性について」、「カルト問題 旧統一教会をはじめとするカルト問題の現場から」など貴重なお話を聴く機会となりました。徐々に協議会は「傾くこと」から、「参加者相互が語り合い、聴き合う」ステージへと移っていきました。20のグループに分かれてのグループシェアリング、バイブルシェアリング、青年による分かち合いの礼拝が持たれました。

3日目は主日聖餐式をもってスタート。礼拝後、主教会からのメッセージ、宣教協働区アワーと続き、東日本・中日本・西日本と分かれて、現状の共有と今後の展望を話し合う交流の時間が持たれ、まとめに入っていました。宣教協議会の提言「(仮称) 清里コール」を出したかったのですが、皆様からの意見・提案が大変多く、多岐に及んでいたため、ドラフト・コミッティでは、まとめきれませんでした。持ち帰りまして、コミッティの皆さんと実行委員会は協働して話し合いを始めております。年内には提言が出され、皆さまと分かち合いたいと願っております。

最後に閉会聖餐式をささげて、全日程を終りました。神さまの導きと、参加者の皆様の積極的な参加と協力、主教をはじめ、全国の皆様のお祈りとご支援、そして今も心を込めて、作業を続けている実行委員と関係者の皆さまに感謝致します。

2023年日本聖公会宣教協議会を終えて

宣教協議会実行委員会副委員長 司祭 ステパノ 越山哲也(東北教区)

日本聖公会史上初めてのオンラインによる日本聖公会第65(定期)総会が2020年10月に開催され、日本聖公会宣教協議会開催および実行委員会設置の件が決議されて準備が始まりました。当時はコロナ禍のただ中にあり、最初の実行委員会は総会後の2020年12月8日にオンライン(ZOOM)で開催され、実行委員はパソコンのモニター越しで初顔合わせでした。そこでまず確認したことは「宣教協議会が日本聖公会に連なる一人でも多くの人に関心を持って頂くように丁寧な情報発信をし、キャッチボールをして準備を進めていく」ことでした。

コロナ禍になって従来のように対面で集まることは出来ない日々が続きましたが、オンライン

ミーティングを利用した実行委員会会議、そして日本聖公会の各諸委員会の皆さんとのぶどうの枝分科会(オンライン)を重ねて参りました。2012年に浜松で開催された宣教協議会の提言の中に「十年後に『2022年日本聖公会宣教協議会』を開催し、十年間どのように〈宣教・牧会〉に取りくむことができたのかを分かち合うことを合わせて提案します。それは同時に、わたしたちの〈宣教・牧会〉の果実を刈り取る収穫感謝の祭りとなるでしょう」とあります。

オンラインによるミーティングによって実行委員会は日本聖公会の各委員会の皆さんと相互に意見を交わしながらこの10年のあゆみを分かち合って参りました。それぞれの働きには恵みと

課題がありそれらを一緒に担っていく主にある仲間であることを確認出来たことは嬉しいことでした。

宣教協議会はコロナ禍が収まらず開催を1年延期することになりましたが、その1年をさらに宣教協議会へ続いていくプロセスと位置づけて可能な限り丁寧に情報を管区事務所だより、各教区報の紙面をお借りして「ぶどうの枝だより」として発信し、また参加者の皆さんともオンラインによる顔合わせを行い、各教区でそれぞれ十年間の実りを持ち寄って頂くために準備をお願いしました。

宣教協議会当日は、それらの実りを持ち寄る「みのり持ち寄りブース」の紹介から始まりました。各教区、各諸委員会がそれぞれ工夫を凝らして収穫の恵みを発表し、またミニバザー（販売）の時間も設けられました。私はその場面が今でも大変印象的に残っています。まだ初対面で緊張感があった参加者同士がお互いのブースを回りながら語り合っている様子を見て「宣教協議会をこうして皆で集まって開催出来て良かった」と心から思いました。オンラインの利点もありますが、やはり対面で会える恵みは大きいと強く感じました。「私たちのあゆみ～物語を聴く」では3つの教会が紡いできた物語を伺いました。

どの教会も一人一人が出来ることを神様にささげてそれぞれの地で神様の宣教のみ業に参加されており大きな励ましを頂きました。「いのちの現場から聴く」ではいのちの現場に立たれてい

る5人の語り手の皆さんから話しを伺いました。主教会からのメッセージでは一人一人の主教様から熱い心の込められたメッセージを拝聴いたしました。グループに分かれての分かち合いでも参加者同士が互いに思いを分かちあうとても良い時間が持てたと思います。それらを経て協議会最終日に「清里からの呼びかけ」を参加者一同でまとめる予定だったのですがたくさんの方から貴重なご意見を頂戴し、その実りをドラフトコミティと実行委員会でさらに話合って参加者の皆さんと共有してまとめていくことになりましたのでもう少しお待ち頂ければと思います。

協議会の最後に閉会聖餐式で読まれた福音書の箇所がマタイ28章16節～20節だったのですが、主と山に登った弟子たちがそこで主に出会い、宣教命令を受け、そして世の終わりまでいつでも共にいると言われた主の言葉を武藤首座主教が取り上げて説教をしてくださいました。呼びかけをまとめきれずにモヤモヤとしていた私の心に主が触れてくださり、礼拝中に涙が溢れてしまいました。

宣教協議会は終わりましたが、これからが本当に大切な時だと思えます。宣教協議会での恵みと課題をまとめて皆さんに呼びかけさせて頂き、ご一緒に協働して参りたいと思えます。世の終わり（御国の完成）まで私たちと共におられると約束された主が絶えず私たちを宣教へ招いてくださっていることを常に心に抱きながら。

2023年日本聖公会宣教協議会で感じたこと

～終わっても終わらない 神の民の歩む道～

宣教協議会実行委員 福澤真紀子（東京教区）

宣教協議会の間、様々な現場から語られる言葉「物語」を聴き、正に働いておられる神様の業とそこに参与しようとする教会の姿について、思い巡らし、話し合いました。今回の宣教協議会を大きな流れで見ると、1日目は10年を携え皆が

集い、今ある賜物を祝い、2日目には、教会の広い宣教の現場について聴き、考えました。3日目は、これからの歩みを見出すために、そして4日目、恵みを携えてそれぞれの場へと再び散らされた、となるでしょうか。一部のプログラムは配

信されました。今回、清泉寮の会場に集まれなかった方々にも、協議会のプログラムや様子をお伝えできたことは画期的でした。関心を寄せて、皆様がそれぞれの場で宣教協議会に参加くださいましたことに感謝いたします。

準備されたプログラムは一つ一つが今までにない、身近で具体的な内容だったと感じています。

「私たちのあゆみ～物語を聴く」では、規模が小さくても神様を信頼しそれぞれの賜物によって生きる教会の姿が、聴く人の心に希望を与えました。「いのちの現場から聴く」では5人の語り手が自らの体験から「となりびと」について語るのを聴き、聴こうとしなければ聞こえない声に私たちはどうやって耳を開いていけるのか、神様によって顕される恵みや癒しの業について、分科会で更に分かち合いの時をもちました。

祈禱所改正やセイフ・チャーチについて、また、宣教協働区・伝道区制も大事なトピックでした。この10年間に始まり、日本聖公会全体として現在進行形で取り組まれていることを、参加者が自分たちのこととして共有できた貴重な時間となりました。10人の教区主教によるリレートークでは「この世界にある教会」の目指す方向が示されたのではないかと思います。各プログラムの中身は録画で見ることができます。

実行委員会としては、「いのち尊厳限りないもの～となりびととなるために～」のテーマが協議会の設定そのものにいきわたるよう工夫しました。協議会全体でみんなが安心して気持ちよく過ごすために「大切にしていきたいこと」の共有を参加者にお願いし、話し合いのプログラムの度に確認しました。また、環境への配慮とし

て、マイボトルの持参が呼びかけられました。いのちを大切にすること、となりびととして生きるために、具体的なお願いであり、必要な前提でした。

至らなかつたところもあります。多様な方達が集まれるようにと、2022年の夏に開かれた「ぶどうの枝協議会」の際に意見が交わされましたが、障がいのある方や小さい子どものいる母親の参加ができるようなケアはできず、仕事を持つ人には参加が困難な日程でした。各地からの必要はあったにもかかわらず、主日礼拝の配信をすることは叶いませんでした。多様性を抱く神の群れとなるためには、根本的な設定を整えていく必要を感じます。

参加者の方々はタイトスケジュールにくたくたになりながらも、協議会中、真剣に聴き合い話しあってくださいました。現在、宣教協議会参加者によるドラフト・コミッティがまとめの作成に力を注いでくださっています。この協議会で目指すまとは一方的なものではなく、「呼びかけ」として出されると理解しています。「呼びかけ」ですから、それを見た皆さんからの応答を必要とします。

神様の恵みの業は具体的だと感じます。事柄の一つ一つは違っても本質は、必ず普遍へ繋がっています。生きた枝が「ぶどうの木」に繋がっているように。それぞれの教会、また私たちはイエス様に繋がる枝として、個別で具体的な働きに招かれていることを、宣教協議会を通して感じました。現代に生きる教会の、私たちのACTS(=使徒言行録)を始めましょう。終わらない宣教協議会の道のりです。



「聖公会神学校（アジア・太平洋地域）校長会議（Anglican Seminary Deans Network Asia-Pacific）を開催」

（2023/11/9～11/13：聖公会神学院）

聖公会神学院 校長 司祭 アンデレ 中村邦介

今年1月にB.ウッドコック司祭（米国聖公会アジア・太平洋地域担当）の働きかけによって、アジア（台湾・香港・フィリピン・韓国・日本）の神学校校長会議がオンライン（ズーム）で度々行なわれてきたが、今回直接顔を会わせて聖公会神学院において開催することになった。当初は上記のアジアの諸神学校が集まる予定であったが、途中から南太平洋のオセアニア（オーストラリア、アオテアロア・ニュージーランド、フィジー）、また英国CTEAC（Commission for Theological Education in the Anglican Communion）のディレクターS. スペンサー司祭及びUSPG（United Society Partners in the Gospel）のパウロ・ウェティ司祭も加わり、台湾を除く総勢10名の参加者によって行なわれた。開催時期が諸般の事情で11月10日（金）～13日（月）となり、清里で行なわれる「宣教協議会」と重複してしまったのは残念なことであった。

会議は各神学校の現状と課題の報告と分かち合いから始まったが、共通したテーマは、100名以上の神学生が学んでいるフィリピン（聖アンデレ神学校）を例外として、全般的に各神学校では志願者の減少という事態にあること、また継続教育と信徒教育に精力的に取り組んでいること、そして将来の神学教育を担う人材の養成が喫緊の課題となっているということであった。各神学校の報告で非常に興味深かったのは、フィジー（洗礼者ヨハネ神学校）では、地球の温暖化による海面上昇や頻発するハリケー

ンの影響で、必修カリキュラムに「災害対策」のセミナーがあること、韓国では社会福祉事業で働く多くの教役者のために改めて「チャプレンシー」についての講座を開始したことなどであった。

今回の会議では、英国教会CTEACからスペンサー司祭とUSPGのウェティ司祭も参加して、ランベス会議の「神の世界のための神の教会」に向かって、宣教の5指標を基盤に「弟子となる」ための神学教育の重要性などが分かち合われた。またこれから3年間のアジアとオセアニアにおける三つの地域における連携協力体制の展開が検討された。1) 日本と韓国 2) フィリピンと香港（台湾・シンガポール） 3) オセアニア・パプアニューギニア、メラネシア、アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア、オーストラリア、来年度からそれぞれの地域で様々な交流プログラムが企画・試行されることになるが、特に日本は韓国の聖公会大学院との連携を図り、学生・教役者・教員間の交流に取り組むことになった。また聖アンデレ神学校（フィリピン）やMing HUA神学校（香港）との相互関係も同時に視野に入れることになる。

さて今回の会議について、3月に突然「本校での開催」の要望を受けて驚かされたが、他に選択肢がないとのことで、ホストとしての役割をお引き受けすることになった。十分に満足頂けるような対応ができるか不安があったが、参加メンバーのご好意に大いに助けられて、非常に充

実した3日間を過ごすことが出来た。これまでのズームによるやり取りでは到底得られない顔と顔を直接合わせての交流は、信頼感の醸成というかけがえのない貴重な経験を与えられた。

グローバリゼーション (Global + Local) : 国を越えた枠組みをもちつつ、足元である地域に仕えるという考え方が、今後ますます重要な意味を持つ中で、アングリカンの特質を生

かして地域の教会や信徒・聖職を含む共同体が、日本社会にあって地道に先取的にその具体的なしるしとなることを期待していきたい。また現役教役者が、一定期間アジア諸地域での働きに参与する短期滞在交換プログラムを検討したい。そのような経験が将来的に自分のミニストリーに新たな活力をもたらすと同時に、日本聖公会全体の宣教にとっても将来的に大切な方向付けを与えてくれるものと確信している。



世界の聖公会の動向

- ☆ 激化する戦争の中、聖地エルサレムの教会指導者たちが節度あるクリスマスと呼びかける
- ☆ アングリカン・コミュニオン神学教育委員会が、教会と神学校のための資料を作成
- ☆ 英国聖公会総会が、同性カップルに向けた祈りを試験的に承認

管区事務所渉外主査 司祭 ポール・トルハースト

○激化する戦争の中、聖地エルサレムの教会指導者たちが節度あるクリスマスと呼びかける

イスラエルと武装組織ハマスによるガザ戦争の犠牲者を思い、聖地エルサレムのキリスト教主要教派の指導者たちは各教会に対し、「不必要に祝う」アドベントやクリスマス行事の開催を控えるよう呼びかけた。

エルサレム教会の指導者らは10月10日付で声明を出し、主にパレスチナ人が占める聖地約18万人の信徒に対し、クリスマスの持つ神聖さに重きを置いたうえで、「悲しみと痛み」に満ちた期間として「この戦争の犠牲者と緊急支援を求める人々の救済」を祈るよう求めた。

「女性や子どもたちを含む、何千人もの罪のない民間人が殺されるか重傷を負わされてしまっています。また、さらに多くの人々が家や愛する人を失い、不確かな運命を嘆いているのです。しかし、どれほど私たちが人道的停戦と武力行為の停止を求めても、未だ戦争は続いています。」と、声明文には記されていた。

毎年、アドベントとクリスマスの祝典には約15万人の巡礼者が聖地に集う。ハイファ、ナザレ、ベツレヘムの聖誕教会とエルサレムのキリスト教徒地区では、パレード、バザー、ストリートコンサート、イルミネーションなどが名物となっている。

ヨルダン教会評議会の指導者たちは11月5日に同様の声明を発表し、ガザ戦争の犠牲者を思い、王国内でのクリスマス行事を中止するよう呼びかけた。同評議会はキリスト教徒に対し、節度ある祝典を催し、祈りと宗教的な儀式を重視するよう求めている。

イスラエルでは10月7日、ハマスにより推定1,200人超が虐殺された。それ以来イスラエル軍がガザ地区に報復攻撃を続け、大半は民間人である1万人以上のパレスチナ人が命を奪われる中、エルサレム教会の指導者らは事態の段階的縮小を求め続けている。

エキュメニカル指導者グループは10月13日、ガザ地区北部の住民110万人を24時間以内に南部へ避難させるというイスラエル軍の通告を非難した。またイスラエルと国際社会に対し、ガザ地区への水、燃料、食料、医薬品の配送を円滑に進めるよう求めた。

さらにエルサレム教会の指導者らは、10月19日にガザ地区の聖ポルフィリオス正教会がイスラエルによる空爆被害に遭い、18人が死亡し30人が負傷した事件にも大きな衝撃を受けたと表明した。カンタベリー大主教との共同声明の中で、戦争の収束と「即時の人道的停戦」を呼びかけている。

○アングリカン・コミュニオン神学教育委員会が、教会と神学校のための資料を作成

新しく設立された「アングリカン・コミュニオン神学教育委員会」(CTEAC)は、21世紀の宣教に向け、教会や神学校に置く教育用資料の概要を作成した。これは、先日アメリカのバージニア神学校(VTS)で開催されたCTEAC会議の結果を受けたものである。

会議の終わりに、アングリカン・コミュニオンの神学教育顧問であるスティーブン・スペンサー師は次のように述べた。「この神学教育委員会における初の対面会議は、新たな関係を築き、ランバース・コールでのいくつかの具体的なリクエストに応えるために極めて重要なものでした。特にコミッショナーとコンサルタントは、計画的な弟子訓練、安全な教会神学、奴隷制度への賠償、科学への信仰、そして和解といったテーマにおいて、神学校や教会のプログラムで使用する教育用資料の草案一式を作成することができました。これらは数か月で最終決定され、その後23年をかけてアングリカン・コミュニオン全体に展開される予定です。21世紀の宣教に向けて私たち教会を整えるという重要任務において、このワークショップはまさに正念場でした。」

また、CTEACの議長である西インド諸島聖公会のハワード・グレゴリー大主教は次のように述べた。「委員会の務めという点から、教会の皆さまに理解していただきたいことがあります。世界中の神学教育の促進だけではなく、リソースを提供することもまたコミュニオンの器となるのです。私たちは皆それぞれのリソースを有していて、委員会はそれを助けていくべきでしょう。しかしさまざまな状況で行なわれている神学教育について見識を広めることも、またコミュニオンを豊かにするのです。」

CTEACは神学校と教会間のネットワークを強化し、オンライン・リソースを開発することを目的としている。オーストラリアの州都パースから参

加したレイウイン・ホワイティ師は当委員会について、「聖職訓練のための人材育成を目指す私たちが共に語り合い、学び合い、特に互いに耳を傾ける場として、非常に重要なものでした」と語った。

○英国聖公会総会が、同性カップルに向けた祈りを試験的に承認

英国聖公会は総会での決定を受け、同性カップルを祝福するための独立した礼拝を試験的に執り行なう予定である。LGBTQ+の人々に対する教会の司牧的責任について、何時間にも渡って議論が紛糾した後、この試験実施が可決された。

11月15日の総会投票は、同性カップルのための祈りと言葉を集めた「愛と信仰の祈り」を既存の教会の礼拝で使用することを認めるという、前月の主教団の決定に基づくものである。また、この祈りを独立した礼拝の基礎とすることも承認されている。

2日間にわたる討論において、主教、聖職者、信徒代表者といった総会参加者たちはまず、英国聖公会第三位であるロンドン教区のサラ・ムラーリー主教が提出した動議の検討を行なった。特にムラーリー師は、同性カップルへの祝福の祈りを実施することで、教会が抱えることとなる不安定さと緊張を強調した。

彼女の動議には、性的少数者(同性愛者)に与えた苦痛をさらに知りたいというものから祝福を完全放棄したいというものまで、計13の修正案が提出された。

11月15日、総会はオックスフォード教区のステューブン・クロフト主教が提出した修正案を受け入れ、独立した礼拝を試験的に執り行なうことを決定した。しかし総会参加者の中には祝福の「視座」に影響を与える可能性を挙げ、名ばかりの祝福となることを危惧する動きも見られた。

クロフト師の修正案は、信徒院においてわずか1票差で可決された。

英国聖公会の指導者であるカンタベリー大主教とヨーク大主教は、特別総会の冒頭において同性カップルへの祈りを支持した。

しかし緊張は依然として高まっていて、ヨーク教区のスティーブン・コترل大主教は11月14日の総会で、意見の相違が「まるで私たちを限界点まで引き伸ばそうとしているようです」と語った。しかし彼はまた、「私たちの教会に同性愛嫌悪の場所があってはなりません」とも述べている。

同性カップルへの祈りに対する反対意見の中には、今後の方針転換の困難さを指摘するものがあった。チチェスター教区のマーティン・ワーナー大主教は「一度でもテストを行えば決して撤回はできないのです」とさらなる意見の対立を危惧し、同性カップルの受け入れについてはさらなる検討が必要だと述べた。

また、ワーナー師は次のようにも語っている。「すべての教義と同様、結婚の教義も実践的なものではありません。私たちの現在の行ないこそ、永遠の現実へつながっていることを示しています。聖霊の住まう私たち自身の身体を、どのように扱っていくのが重要です。これは単なる献身ではありません。このような祈りを用いることには、さらなる理論的根拠が必要でしょう。」

➤ の投票はアングリカン・コミュニオンの他
➤ 組織に対して拘束力を持たないものの、同性愛者に寛容的すぎるとカンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師を強く批判してきた人々の間では、特に興味をもって注目されると思われる。

ムラーリー師はこのことについて、次のように述べている。「今、私たちはとても不安定な時期にあって、教会に関わる多くの人々が苦悩を抱えています。現在の総会は主教団に対し、この取組みを継続するよう推奨していくべきです。」

祈りの完全な承認には総会において3分の2を超える得票が必要となり、より困難な道となる。水曜日の得票率は52%であった。

長時間に及んだ討論の中で、何人かの講演者

は同性愛者として英国聖公会に属していた自身の経験を語った。ダラム教区のシャンタル・ノッペン師は、集まった聴衆に向けて次のように述べている。「クイアであることの意味、性別を超えて愛する方法、自らに抱いてきた羞恥心について、私はよく知っています。しかしイエス様は、私たちがどうあるべきかを示してくださいました。今こそ前進するべきなのです。」

また、45年間教会のオルガニストを務めてきたポール・ロンソン氏は次のように語った。「もう十分でしょう、長く続き過ぎました。私のことを地獄に落ちると蔑む人々に、今こそ告げましょう。何者も、神の愛から私を引き離すことはできないのだと。」

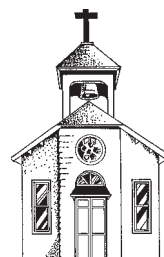
同性カップルのため試される祈りのひとつに、「献身の祈り」がある。

恵み深い神よ

その美しさは、すべての被造物を通して、古代より常に新しいと賛美されます

どうかあなたのしもべ、〇〇と〇〇とを、あなたの励ましによる希望と愛で包みこみ、互いへの愛を抱きつつ、喜ばしい恵みで満たしてくださいそして、み子イエス・キリストにより示された、聖なる希望の道を歩むことができますように

一同：アーメン



世界平和統一家庭連合（旧・統一協会）に対する 解散命令請求に関する声明

わたしたちは世界平和統一家庭連合（旧・世界基督教統一神霊協会）およびその関連団体による被害者から寄せられた相談を受け、救済のために活動してきました。わたしたちは国が旧・統一協会の実態を綿密に調査し、解散命令請求を裁判所に提出したことを評価します。

旧・統一協会は、法令に違反し、著しく公共の福祉を害する「破壊的カルト」であると、わたしたちは認識しています。しかし、旧・統一協会に対する批判が、現役信者とその家族たち、脱会者とその家族たちに対する差別につながってはなりません。教化育成過程において自由意志をゆがめられ、継続して情報操作や精神的あるいは経済的虐待を受け続けた結果、これまで旧・統一協会を離れる機会を得られなかった被害者たちも多くいると考えます。

旧・統一協会およびその関連団体は、金銭収奪の問題のみならず、被害者たち一人ひとりの人生全体に深刻な悲しみと苦しみを長期間に渡り及ぼしてきました。そして、そのような旧・統一協会およびその関連団体と国会・地方議会の政治家との癒着関係について、また、それが政治にどのような影響を与えてきたかについて、その全貌はいまだ明らかにされていません。

わたしたちは国が旧・統一協会の違法性・悪質性を認定した新しい局面を見据えつつ、今後も継続して旧・統一協会とその関連団体によるすべての被害者に寄り添い、支援してまいります。

2023年11月25日

カトリック中央協議会
在日大韓基督教会
日本イエス・キリスト教団
日本基督教団
日本聖公会
日本バプテスト連盟
日本福音ルーテル教会
日本キリスト教協議会

Merry Christmas and a Happy New Year

16 武藤 謙一

日本聖公会首座主教

エッセイ 矢萩 新一

管区事務所総主事

マコト 金子 登美江

総務主事

Waver
Wilson

渉外主事

ヒロコ Hiroko Suzuki

財政主事

イサヲイ 鈴木 一

広報主事



卓 志雄

宣教主事

ヨシロ 西島 厚

管区事務所職員 (ナザレの家)

水谷 牧子

管区事務所職員

鳥居 雅志

管区事務所職員

鈴木 幸子
Ceilia S.G.

管区事務所職員

及川 史子

管区事務所職員

Apphia
水野 直子

管区事務所職員 (ナザレの家)

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskkn.org 広報主事 (鈴木 一) 宛て